

## はじめに

今年度より、東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画が実施される。基本理念は、「共生社会の実現に向け、障害のある幼児・児童・生徒の自立を目指し、一人一人の能力を最大限に伸ばして、社会に参加・貢献できる人間を育成」である。本校は、この基本理念を踏まえ実現に向けた取組みを学校経営に位置付け推進していく。

来年度、本校は創立10周年を迎える。小学部からのキャリア教育を推進し、児童・生徒一人一人の自立と社会参加を目指して、その基盤となる力を育てる学校づくりをさらに推進する。今年度の最重要項目の1つとして児童・生徒が主体的に取組めるような環境設定（青山ベーシック）を全教室で整え実践し、児童・生徒に学ぶ喜びを感じさせ、自己肯定感や自己有用感を高めていく。本校の校訓「小さな一歩の継続」を積み重ね、自信を付け、「できた、わかった、やってみよう」という気持ちを育ませ、次のステージに送り出すことを本校の使命とし、人権感覚を高め、児童・生徒の生命を守り、安全・安心な学校の推進、地域や保護者に向けた情報発信など多角的な視点で学校経営を進め、保護者や地域からの信頼に応える学校づくりを目指す。

## I 目指す学校

「地域でたくましく生きるために、児童・生徒の可能性を引き出し、伸ばす学校」

### 1 スペシャリティ

- (1) 個に応じた教育を推進する学校
- (2) 専門性の向上を目指す学校
- (3) 特別支援教育のセンター的機能を果たす学校

### 2 コミュニティ

- (1) 保護者との連携を大切にする学校
- (2) 地域社会との信頼関係を高める学校
- (3) 教員同士がチームで高め合う学校

### 3 セーフティ

- (1) 児童・生徒が安全で安心して過ごすことができる学校
- (2) 保護者が子供を通わせたい学校
- (3) 地域が応援したくなる学校

## 目指す児童・生徒像

- 1 あいさつのできる子（コミュニケーション力、社会性）
- 2 おもいやりのある子（人間性、道徳心）
- 3 やるきのある子（主体性、積極性、自己肯定感）
- 4 まなべる子（基礎・基本的な力の習得、生涯学習）

## 目指す教職員像

- 1 知的障害特別支援学校の一員として、専門性を活かし責任を果たす教職員（専門性）
- 2 根拠に基づく教育課程を編成し、実施・評価・改善を行う教職員（根拠性）
- 3 保護者や地域と連携し、地域貢献を積極的に行う教職員（協調性）
- 4 互いを称賛し、信頼し、進んで協力し、英知を結集することを惜しまない教職員（利他性）

## II 中期的目標と方策

- 1 人権尊重の精神に基づく教育活動の推進
  - (1) いじめや体罰、不適切な指導等のない人権に配慮した教育を尊重する教育活動の推進
  - (2) 教育活動全体をとおした道徳教育の推進
  - (3) 児童・生徒の生活年齢や信条に配慮した教育活動の推進
- 2 安全・安心な教育環境の整備
  - (1) 校舎内外の環境整備・安全対策
  - (2) 防災教育・防災対策の推進
  - (3) 新しい日常・新しい生活様式に対応した教育活動の創設
  - (4) 家庭や医療機関等関係機関と連携した指導の推進
- 3 自立と社会参加を目指した教育の充実
  - (1) 学習指導要領を踏まえた教育課程の編成・実施・管理及び改善
  - (2) 地域資源の活用など一人一人のキャリア発達を見据えた教育の推進
  - (3) 研究テーマやアセスメントに基づいた研究授業の実践
  - (4) 外部専門員との連携に基づく、指導内容と方法の改善
  - (5) ICT 機器等を活用した多様な学びの推進
- 4 地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図る
  - (1) 特別支援教育コーディネーターを中心としたセンター的機能の充実
  - (2) 区教育委員会や近隣の幼稚園、保育園、小・中・高等学校との連携による特別支援教育の理解推進
  - (3) 区教育委員会と連携した副籍制度、交流及び共同学習の促進
- 5 組織的・機能的な学校運営
  - (1) 業務の効率化や職場環境の整備等、働き方改革の促進
  - (2) 情報システムや人的資源の有効活用
  - (3) 経営企画室と連携した自立経営予算の適正な執行
- 6 学校経営の中核を担うミドルリーダーの育成
  - (1) 主任教諭の役割の明確化
  - (2) キャリアプランに基づいた人材育成の推進
  - (3) OJT システムの活用による職層に応じた人材育成の推進

## III 今年度の取組目標と具体的方策

### 最重点項目

- 児童・生徒が主体的に学べる環境設定「青山ベーシック」の構築
- 児童・生徒に自己肯定感、自己有用感を育ませるキャリア教育の推進
- 教職員の業務や職層に応じた、特別支援教育の専門性の向上
- 児童・生徒、保護者、地域から信頼される、安全・安心な学校

## 1 学習指導

- (1) 研究テーマ、アセスメント等に基づいた一人1回研究授業の実施と授業改善及び青山ベーシックの構築（全員／研究研修部）
- (2) 地域資源を活用した授業実践（各学部）
- (3) 発達段階に応じた指導の充実（全員）
- (4) 外部専門員等を活用した指導の充実（各学部通年）
- (5) 東京都教育ビジョン及び未来の東京戦略等に基づいたICT機器等を活用した授業の充実（全員）

## 2 生活指導・進路指導

- (1) 児童・生徒一人一人に応じた適切な生活・進路指導（担任）
- (2) 事故ゼロを目指し、組織的な安全点検の実施と環境整備日の実施（月1回）
- (3) スクールバスの円滑で安全な運行の徹底（連絡会毎月／研修会年2回）
- (4) 個々の実態に応じた一人通学に向けた状況把握と対応策の提案（全員）
- (5) 「青山のキャリア教育」に基づいた指導（通年／全員）
- (6) 地域や保護者と連携した防災訓練の実施と改善（防災教育推進委員会）

## 3 特別活動・その他（安全・安心、健康づくり、地域交流等）

- (1) ガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染症対策の徹底（全員）
- (2) 人権に配慮した教育活動の徹底（呼称、言葉遣い）、体罰、不適切な行為の撲滅（全員）
- (3) 防災教育の推進及び危機管理マニュアルの改訂（随時）
- (4) 医療的ケア、アレルギー対応研修会及びマニュアルの改訂（学期ごと）
- (5) 感染予防意識を高め、使用教室等の衛生管理（毎日）
- (6) 地域や家庭への理解啓発を促すための各通信等の発行（月／1回）
- (7) 近隣の小・中学校、高等学校との連携（各学部年1回）
- (8) 区教育委員会や地域指定校との連携による副籍交流の実施（実施率50%）
- (9) 就学前機関（幼稚園・保育園等）との連携強化と指導・助言の実施（年30回）
- (10) ホームページの充実と本校の情報発信（随時／100回以上）
- (11) 外部人材を活用した図書整理と図書室の有効活用（各学部）
- (12) 生活支援シート等を活用し、家庭、医療、福祉等の関係機関との引継ぎ連携（随時）
- (13) 「TOKYOACTIVE PLAN for students」（総合的な子供の基礎体力向上方策）に基づくスポーツライフの推進（全員）

## 4 学校運営・組織体制

- (1) ミドルリーダーを中心とした円滑な学校運営と人材育成（各学部・分掌等／通年）
- (2) 学校改善等に向けた、主幹会、企画調整会議の充実（週1回）
- (3) PDCAサイクルによる学校評価の実施（全員）
- (4) 学部、分掌等の運営について組織的・効率的な実施、次年度に向けた改善（全員）
- (5) 服務事故防止研修、ヒアリング等による服務規律の徹底（年5回／事故ゼロ）
- (6) 管理職による教職員の時間外勤務の把握及び教職員の自己管理の徹底（45時間以下）
- (7) 定時退庁日やマイ定時退庁日等の設定や会議等の工夫による働き方改革の推進（週1日）
- (8) 効率的な会議運営等による働き方改革の推進（主幹教諭）
- (9) 地域資源やTEPROを活用した業務効率の推進（主幹教諭）
- (10) 適切な予算編成及び計画的な予算執行の徹底（企画室／センター契約75%）
- (11) 委託業者（給食調理、清掃業者）との円滑な連携（連絡会の開催月1回）